

2012年「オーディオ・ホームシアター展」セミナーより

デジタル時代における真空管の役割

株式会社トライオード

代表取締役 山崎 順一

1. 「真空管」その言葉の響きに皆さんは何を想像するでしょうか。

懐古主義？ ビンテージ？ 真空管マニア？ 音が柔らかい？ すぐ壊れる？
いずれもノーです。

私はここで真空管の詳しい歴史とか電気的特性などを述べるつもりは毛頭ありません。

その辺は技術誌に任せておいて、どうしても今オーディオに真空管なのかを述べたいと思います。

振り返ると1900年初頭に真空管の三極管が生み出されて以来、拡声装置 - 音響用増幅器として改良を重ねて大きな出力を取り出すために5極管が開発され、その反面スペースや電源電圧を大きく取ると電源効率が悪くなり次第に効率の良いソリッドステート素子、そして現在ではDクラスすなわちデジタルアンプへと変貌するわけです。

もちろんオーディオ機器も他の電気製品と同じ様に進化してしかるべきですが、他の電気製品はその機器の価値は性能や使いやすさがセールスポイントとなります。すなわち技術力がその製品の価値を左右することとなります。

ここでお気づきだと思いますが、オーディオ機器は家電であって家電では無いということです。またオーケストラ、ジャズ、ポップスどれをとっても音楽を声や楽器によって奏でる芸術ですが、オーディオも実は芸術を表現する大切な電気楽器と呼んでもおかしくありません。

音楽 = 芸術、このことは音楽こそが心を豊かにし文化を伝えるための道具の一つと信じています。

1980年初頭メディアがレコードからCDに変わっていった時期がありました。

誰もがあのレコードの パチパチ 音とおさらば出来ると信じ各社がそろって製品を開発していった訳ですが、どうしてもアナログレコードの音質に勝ることが出来なかった時代でした。

それは音楽をデジタル信号の符号に単純に置き換えたため、大切な音楽ソースのニュアンスや録音会場での空気の動きなどを適切に表現できる技術はまだ無かったと考えられます。

今でこそスーパーオーディオCDやブルーレイオーディオなどに進化してきて情報量をいかに伝達するかが重要なポイントになりました。

ただ音楽的などという部分ではソリッドステート製品では立ち入れない部分を真空管がいかに効果を発揮するかがポイントになります。



超小型プリメインアンプ Ruby ¥63,000

2. 出力 3W の小型真空管アンプとの出会い

トライオードの創業前のまだ私がいちオーディオファンだった頃の話に戻りますが、私の友人が、たかだか出力 3W の真空管アンプを自作したから聞いて欲しいと持ってきたことがありました。1980 年代ですからトランジスター全盛の時代で真空管アンプ = 高額という時代で、私自身当時は、花形のトランジスターアンプやスピーカーを愛用していたわけです。

まあたかだか 3W のアンプでは無理だろうとたかをくくっていました。ドライブするスピーカーは 46 センチウーファーを搭載した 4 ウェイスピーカーでした。電源スイッチをいれて音楽が出たとたん、この音色は何だ！まさに目から鱗の状態でした。

3. 新しいオーディオの世界へ

この時、これこそがオーディオの目指すべき道であると確信して現在のトライオードに至っています。どうしてこのような芳醇なコクのあるサウンドを真空管は出せるのか？単純でかつ原点に戻った疑問を当時から未だに考え続けて今日に至ります。さりとて過去のイメージの真空管アンプのイメージを払拭し新しいオーディオの世界を作りたい、決してビンテージでは無く古くさくなく、現代のダイナミックレンジに優れた録音のメディアを再生したり、スーパーオーディオ CD の情報量も損失無く、かつスピード感ある躍動的なシステムの構築を目指しています。

オーケストラの生演奏であっても指揮者や楽団員一人一人のコンディションでイメージが変わるものです。よくオーディオマニアの間では原音再生という言い方をしますが、実際の生演奏では毎回イメージが違うのが常です。弦楽器一つとってもその演奏者のコンディションで変わるわけです。真空管のオーディオ装置は真空管によって楽器の質感が変わってきますが基本的な質感さえ抑えておけば、どんな楽器でも躍動感のある表現することが可能です。

4. デジタル機器との融合

現代のデジタル機器の性能は素晴らしく、忠実に音楽を表現しますが、先ほど述べた音楽のコクを出すのが難しいとも言えます。当社の基本的なシステムは全段真空管で構成された真空管ブリメインアンプなどがメインになりますが、他のトランジスター機器に真空管装置をプラスするだけで音楽性のある音楽を再生することが可能となります。

昨年暮れにデビューした第五世代の CD プレーヤー TRV CD5SE と DAC コンバーター TRV DAC1.0 です。

これらのシステムを購入される方の多くはトライオード以外のトランジスター機器をお持ちの方と聞きます。



USB DAC 搭載小型ブリメインアンプ ¥136,500

機器の性能だけでは音楽を表現できないのがオーディオ装置の面白いところで、今後の機器がますます性能重視になっていけばいくほど真空管の音楽表現をとりいれた機器の需要が多くなることと確信します。事実プリ段に真空管を使用した製品をずいぶん目にするようになりました。

確実に今後のオーディオには真空管は無くしてはならないものとなる理由は二つ、前途した音楽性に関わる部分と、その生産体制にあります。オートメーションで製造できないのが真空管で数に応じた生産量を生産することが可能です。トライオードではこの18年間の間に5万台以上の生産実績があります。これが真空管オーディオへの道しるべが多少でも引けた実績と考えます。今後真空管オーディオに期待していただきたいのと同時に、是非真空管サウンドデビューを果たして下さい。